



# 令和5年7月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

令和5年6月9日

上場会社名 株式会社メディアシーク  
コード番号 4824 URL <https://www.mediaseek.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西尾 直紀  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役業務管理部長 (氏名) 市橋 哲  
四半期報告書提出予定日 令和5年6月13日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
TEL 03-5423-6600

(百万円未満切捨て)

## 1. 令和5年7月期第3四半期の連結業績(令和4年8月1日～令和5年4月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年7月期第3四半期	638	9.0	34	49.8	51	52.8	37	59.5
4年7月期第3四半期	701	54.2	68	60.6	108	52.1	93	22.7

(注) 包括利益 5年7月期第3四半期 32百万円 ( %) 4年7月期第3四半期 826百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年7月期第3四半期	3.86	
4年7月期第3四半期	9.55	

注) 令和5年7月期第3四半期及び令和4年7月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
5年7月期第3四半期	3,826	3,127	81.2	318.85
4年7月期	3,772	3,104	81.7	316.48

(参考) 自己資本 5年7月期第3四半期 3,106百万円 4年7月期 3,083百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年7月期		0.00		1.00	1.00
5年7月期		0.00			
5年7月期(予想)				1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 令和5年7月期の連結業績予想(令和4年8月1日～令和5年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	902	1.7	30	26.7	42	43.9	32	42.0	3.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	5年7月期3Q	9,766,800 株	4年7月期	9,766,800 株
期末自己株式数	5年7月期3Q	23,345 株	4年7月期	23,345 株
期中平均株式数(四半期累計)	5年7月期3Q	9,743,455 株	4年7月期3Q	9,743,455 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により、上記予想数値と異なる場合があります。

業績予想の前提となる条件等については、【添付資料】「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたこと等により、緩やかな回復の兆しがみられる一方で、ウクライナ情勢の長期化や、原材料価格の高騰による物価上昇等、経済の先行きに係る不確実性は依然として高い状況が続いております。当社グループは、引き続きコーポレートDX、画像解析・AI、ライフスタイルDX、ブレインテック・DTx及びベンチャーインキュベーションの5つの事業領域をターゲットにビジネス展開を行っております。

新型コロナウイルス感染症による経済への影響は未だ払拭し難い一方で、働き方改革及びテレワークの浸透並びに業務プロセスの効率化等のDXの推進によりITサービスの需要は堅調に拡大しております。当社グループは、これらの状況を踏まえた上で、新たな市場トレンドに対応した成長市場向けサービス強化と新規ビジネス拡大を進めております。また、社内体制整備の側面においても、働き方改革及びテレワークの社会的普及のトレンドを先取る形で首都圏在住にこだわらない流動的かつ機動的なエンジニアの確保のスキームの体制構築を進めており、一定の成果が表れております。

当第3四半期連結累計期間においては、「コーポレートDX」ビジネスユニットにおいて、国内の法人クライアントに対するシステムコンサルティング業務による売上を計上しました。「画像解析・AI」ビジネスユニットにおいては、スマートフォン向け無料提供アプリ「バーコードリーダー/アイコンット」を中心に、主にスマートフォン向け広告収入による売上を計上しました。「ライフスタイルDX」ビジネスユニットにおいては、当社オンラインプラットフォーム「マイクラス」、「マイクラスリモート」による売上のほか、スマートフォン向けゲーム等各種情報サービスによる売上を計上しました。「ブレインテック・DTx」ビジネスユニットにおいては、DTx、認知機能チェック、医療SI及びNFBエンジン提供等の各種領域で研究開発及び新規事業構築活動を行っております。「ベンチャーインキュベーション」ビジネスユニットにおいては、有望なスタートアップ企業、各種ベンチャー企業に対するインキュベーションサービスに伴う活動を実施しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、638,908千円(前年同期比9.0%減)、営業利益は、34,177千円(前年同期比49.8%減)、経常利益は、51,127千円(前年同期比52.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、37,640千円(前年同期比59.5%減)となりました。なお、売上及び営業利益の数値が前年同期に比べて落ち込んでいるのは、特に画像解析・AI及びブレインテック・DTxの領域において令和5年7月期を将来的な収益及び利益獲得のための先行投資実施の期間と位置付け、積極的な内外のリソースの投下を行う方針としているためです。

セグメントごとの経営成績は、以下の通りです。

#### (コーポレートDX)

「コーポレートDX」ビジネスユニットにおいては、主に国内の法人クライアントに対するシステムコンサルティングサービスを実施しました。その結果、同ビジネスユニットの当第3四半期連結累計期間の売上高は、229,131千円(前年同期比16.6%減)、セグメント利益は、86,898千円(前年同期比13.5%減)となりました。社内外のリソースを先行投資のために投下しているため、売上高及びセグメント利益は前年同期に比べて減少しております。一方で、首都圏在住にこだわらない流動的かつ機動的なエンジニア確保のスキームの構築体制が進んでおり、当第3四半期連結累計期間のセグメント利益率は、37.9%となっており、前第3四半期連結累計期間の36.6%から向上していることが示す通り、生産性の向上がみられる状況となっております。

## (画像解析・A I)

「画像解析・A I」ビジネスユニットにおいては、主に累計3,500万ダウンロードを達成したスマートフォン向け無料提供アプリ「バーコードリーダー/アイコンット」を中心としたスマートフォン向け広告収入のほか、各種ライセンス提供に基づく売上を計上しました。その結果、同ビジネスユニットの当第3四半期連結累計期間の売上高は、209,529千円(前年同期比15.3%減)、セグメント利益は、82,168千円(前年同期比35.9%減)となりました。売上高及びセグメント利益の減少は主力製品である「バーコードリーダー/アイコンット」の売上高が減少している事に起因します。当該サービスは広告収入により収益を獲得するビジネスモデルとなっております。広告の表示回数は前年同期比で増加傾向にある一方で、経済の先行きに係る不確実性の関係から業界全体の広告単価が低下しており、売上高が減少しております。なお、広告単価の減少については下げ止まりの傾向がみられません。広告の表示回数が増加傾向にあることから、広告単価が回復した場合、売上高は大きく増加するものと見込まれます。

## (ライフスタイルDX)

「ライフスタイルDX」ビジネスユニットにおいては、当社オンラインプラットフォーム「マイクラス」、  
「マイクラスリモート」による売上を計上しました。「マイクラス」のクライアントであるカルチャーセンター業界は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により業界再編が進み中小カルチャーセンターの事業撤退が発生している一方で、経営の効率化を迫られた大手カルチャースクールの情報設備投資が促進されている状況にあります。商品力の高い「マイクラス」はこのような業界の動向により、大手カルチャーセンターからの多くの引き合いがある状況にあり、前年同期比で大きな増収増益となっております。この状況はしばらく継続する見込みとなっております。また、スマートフォン向けゲーム等各種情報サービスによる売上を計上しました。特に当第3四半期連結会計期間中にタイの人気ドラマに出演する、複数の俳優をモデルにしたファン向けデジタルサービス(ファンゲーム、Photoフレームアプリ、SNSスタンプ等)を提供する「BOYS MEETING from Thailand」を開始しており、順調な滑り出しを見せております。その結果、同ビジネスユニットの当第3四半期連結累計期間の売上高は、199,654千円(前年同期比11.5%増)、セグメント利益は、50,259千円(前年同期比98.3%増)となりました。

## (ブレインテック・DTx)

「ブレインテック・DTx」ビジネスユニットにおいては、DTx、認知機能チェック、医療SI及びNFBエンジン提供等の各種領域で研究開発及び新規事業構築活動を行っております。また、当社が独自開発したブレインテックエンジン「ALPHA SWITCH」を活用したアプリによる売上のほか、各種コンサルティングサービスに基づく売上を計上しました。その結果、同ビジネスユニットの当第3四半期連結累計期間の売上高は、593千円(前年同期比5.8%減)、セグメント損失は、29,391千円(前年同期は17,454千円のセグメント損失)となりました。当該セグメントの売上高は、僅少な値となっておりますが、これは、当該セグメントの活動が当第3四半期連結累計期間において、事業立ち上げのフェーズにあり本格的に売上高を計上するフェーズにないためです。

## (ベンチャーインキュベーション)

「ベンチャーインキュベーション」ビジネスユニットにおいては、有望なスタートアップ企業、各種ベンチャー企業に対するインキュベーションサービスに伴う活動を実施しました。なお、当第3四半期連結累計期間で一部売上高及び利益が発生しておりますが、これらは、全社管理部門で発生した費用及び「コーポレートDX」ビジネスユニットで計上された売上高及びセグメント利益と切り分けが困難であるため、当該ビジネスユニットに値を含めております。なお、当第3四半期連結会計期間末に計上されているその他有価証券評価差額金のうち、1,009,423千円は、同ビジネスユニットの活動に起因したものととなります。

## (2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

## ①資産の部

資産の総額は、3,826,404千円(前連結会計年度末比1.4%増)です。

流動資産は、総資産の18.9%に相当する723,492千円(前連結会計年度末比5.6%減)です。流動資産の前連結会計年度末からの減少額は、42,871千円となっておりますが、この主要因は、売掛金及び契約資産が163,606千円増加したこと並びにその他の棚卸資産が20,639千円増加した一方で、現金及び預金が114,773千円減少したこと並びに流動資産のその他に含まれる預け金が108,065千円減少したことによるものです。また、現金及び預金の残高は、381,747千円(前連結会計年度末比23.1%減)となっており、流動資産の大きな割合を占めております。なお、現金及び預金の減少は、主として投資有価証券の取得によるものです。

固定資産は、総資産の81.1%に相当する3,102,911千円(前連結会計年度末比3.2%増)です。

有形固定資産は、総資産の0.7%に相当する28,489千円(前連結会計年度末比19.5%減)となっております。

無形固定資産は、該当するものが無いため(前連結会計年度末も、該当無し)残高が計上されておられません。

投資その他の資産は、総資産の80.3%に相当する3,074,421千円(前連結会計年度末比3.5%増)です。投資その他の資産の前連結会計年度末からの増加額は、104,103千円となっておりますが、この主要因は、余資運用の一環として投資有価証券を購入したことにより、投資有価証券が103,200千円増加したことによるものです。投資その他の資産のその他の内訳として、長期滞留債権が26,650千円計上されておりますが、全額に相当する26,650千円について貸倒引当金が計上済みであるため、貸倒れの確定による多額の追加損失発生の恐れはありません。また、投資有価証券が3,002,192千円計上されておりますが、このうち2,955,659千円は時価を有する性質のものです。

## ②負債の部

負債の総額は、負債純資産合計の18.3%に相当する699,243千円(前連結会計年度末比4.7%増)です。

流動負債は、負債純資産合計の4.0%に相当する153,138千円(前連結会計年度末比24.0%増)となっております。流動負債の前連結会計年度末からの増加額は、29,614千円となっておりますが、この主要因は、賞与引当金が12,000千円減少した一方で、1年内返済予定の長期借入金が21,460千円増加したこと及び流動負債のその他に含まれる未払金が21,201千円増加したことによるものです。

固定負債は、負債純資産合計の14.3%に相当する546,105千円(前連結会計年度末比0.4%増)となっております。前連結会計年度末からの増加額は、1,973千円となっておりますが、この主要因は、繰延税金負債が2,873千円増加したことによるものです。

## ③純資産の部

純資産の総額は、3,127,160千円(前連結会計年度末比0.7%増)であり、自己資本比率は、81.2%と高い水準を維持しております。純資産の前連結会計年度末からの増加額は、22,732千円となっておりますが、この主要因は、9,743千円の配当を実行した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益を37,640千円計上したことにより利益剰余金が27,896千円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和5年7月期の連結業績予想につきましては、概ね計画通りに推移しているため、令和5年3月10日に公表しました業績予想の数値に変更はありません。

当該予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。予想に様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えられるようお願いいたします。また、実際の業績は、様々な要因により本業績予想とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	496,521	381,747
売掛金及び契約資産	111,786	275,392
商品	847	534
仕掛品	1,961	2,051
その他の棚卸資産	—	20,639
その他	155,252	43,133
貸倒引当金	△4	△8
流動資産合計	766,364	723,492
固定資産		
有形固定資産	35,402	28,489
投資その他の資産		
投資有価証券	2,898,992	3,002,192
その他	97,976	98,880
貸倒引当金	△26,650	△26,650
投資その他の資産合計	2,970,318	3,074,421
固定資産合計	3,005,720	3,102,911
資産合計	3,772,084	3,826,404



(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和4年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和5年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	10,884	11,317
1年内返済予定の長期借入金	49,612	71,072
未払法人税等	5,104	3,375
賞与引当金	12,000	—
その他	45,922	67,373
流動負債合計	123,523	153,138
固定負債		
長期借入金	88,631	87,677
繰延税金負債	448,378	451,251
資産除去債務	7,123	7,176
固定負債合計	544,132	546,105
負債合計	667,656	699,243
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	823,267	823,267
資本剰余金	1,029,669	1,029,669
利益剰余金	241,000	268,897
自己株式	△39,724	△39,724
株主資本合計	2,054,212	2,082,108
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,029,373	1,024,592
その他の包括利益累計額合計	1,029,373	1,024,592
非支配株主持分	20,842	20,458
純資産合計	3,104,428	3,127,160
負債純資産合計	3,772,084	3,826,404

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)
売上高	701,746	638,908
売上原価	414,003	389,199
売上総利益	287,743	249,709
販売費及び一般管理費	219,650	215,532
営業利益	68,092	34,177
営業外収益		
受取利息	20,416	26,530
受取配当金	8,173	9,234
投資有価証券売却益	11,111	31,397
その他	10,689	4,329
営業外収益合計	50,390	71,491
営業外費用		
支払利息	929	1,565
投資有価証券売却損	2,540	839
投資有価証券評価損	3,777	49,051
支払手数料	2,815	3,084
営業外費用合計	10,062	54,541
経常利益	108,420	51,127
特別損失		
事務所移転費用	3,027	—
その他	384	—
特別損失合計	3,412	—
税金等調整前四半期純利益	105,008	51,127
法人税、住民税及び事業税	12,544	8,886
法人税等調整額	—	4,983
法人税等合計	12,544	13,870
四半期純利益	92,463	37,256
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△566	△383
親会社株主に帰属する四半期純利益	93,030	37,640

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)
四半期純利益	92,463	37,256
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△918,592	△4,781
その他の包括利益合計	△918,592	△4,781
四半期包括利益	△826,128	32,475
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△825,562	32,858
非支配株主に係る四半期包括利益	△566	△383

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 令和3年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。これにより、投資信託財産が金融商品である投資信託については、市場における取引価格が存在せず、かつ、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がないため、基準価額等を時価としております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 令和3年8月1日 至 令和4年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)2	合計	調整額 (注)1,3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)4
	コーポレ ートDX (注)1	画像解析・ AI	ライフスタ イルDX	ブレインテ ック・DT x	計				
売上高									
一時点で移転さ れる財	172,173	246,670	136,218	371	555,433	—	555,433	—	555,433
一定期間にわたり 移転される財	102,513	715	42,826	257	146,312	—	146,312	—	146,312
顧客との契約か ら生じる収益	274,686	247,385	179,045	629	701,746	—	701,746	—	701,746
外部顧客への売 上高	274,686	247,385	179,045	629	701,746	—	701,746	—	701,746
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	274,686	247,385	179,045	629	701,746	—	701,746	—	701,746
セグメント利益 又は損失(△)	100,455	128,206	25,348	△17,454	236,556	△11,525	225,030	△156,938	68,092

(注) 1 主に、株式会社メディアシークキャピタルで発生するベンチャーインキュベーションのビジネスユニットで発生した活動は、一部全社管理部門及びコーポレートDXセグメントで発生した活動との切り分けが困難であるため、これらに含めております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主として研究開発部門の新規領域での事業活動等になります。

3 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全社管理部門の費用です。

4 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## II 当第3四半期連結累計期間(自 令和4年8月1日 至 令和5年4月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)2	合計	調整額 (注)1,3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)4
	コーポレー トDX (注)1	画像解析・ AI	ライフスタ イルDX	ブレインテ ック・DT x	計				
売上高									
一時点で移転さ れる財	91,161	207,804	110,900	230	410,096	—	410,096	—	410,096
一定期間にわた り移転される財	137,970	1,725	88,754	362	228,812	—	228,812	—	228,812
顧客との契約か ら生じる収益	229,131	209,529	199,654	593	638,908	—	638,908	—	638,908
外部顧客への売 上高	229,131	209,529	199,654	593	638,908	—	638,908	—	638,908
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	229,131	209,529	199,654	593	638,908	—	638,908	—	638,908
セグメント利益 又は損失(△)	86,898	82,168	50,259	△29,391	189,935	△14,889	175,045	△140,868	34,177

(注) 1 主に、株式会社メディアシークキャピタルで発生するベンチャーインキュベーションのビジネスユニットで発生した活動は、一部全社管理部門及びコーポレートDXセグメントで発生した活動との切り分けが困難であるため、これらに含めております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主として研究開発部門の新規領域での事業活動等になります。

3 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全社管理部門の費用です。

4 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。